

## 公園 DE 認知症予防

認知症予防推進員の会「居場所づくり」グループ

### ○活動報告

- ・開催数、参加者数、新規団体の開発等目標を大きくクリアすることが出来た。また、高齢者センター、自治会、包括支援センターなどの多岐にわたる活動ができ、多くの知識と経験を得られた。
- ・看護師の経験を活かして高齢者の健康相談、太極拳やエアロビクスなどのインストラクターにより、体操のバリエーションが広がった。また、「つくば脳フィットネス研究会」の技術講習に参加して、楽しいゲームをプラスすることができた。
- ・会員数が30～40人になって、区内全域で展開できるような方向が見えてきた。
- ・身近な公園をいかに活用するか、自立させる為の事務局育成、看護師や、スポーツリーダーの一層の活用、研修・教育で、リーダーやメンバーの能力向上・育成を図ること、防災対策などの課題がある。

- ・区の助成を受けた事で、対外的な信用が得られ、管理体制の充実が進んだ。

### ○講評から

- ・自己評価がしっかりしている。活動内容が多岐にわたっているが、広げるより深めることが次のステップだと思う。
- ・メンバーの能力を引き出しながらの活動がいい。リーダーの育成・継続・動機付けが難しいと思う。防災面が遅れていることは要検討だと思う。



## 「緑で元気になろう！」プロジェクト

練馬ふくしの輪

### ○活動報告

- ・区内にある福祉施設の花壇や憩いの場など、昔からある懐かしい草花や果実、野菜などを植えて緑いっぱいにする事から始めた。
- ・普段あまり気づかなかった施設に目を留めてもらい、新たに関心を持ってもらい、気軽に利用していただき、輪を広げて行けたらという思いで活動してきた。
- ・大泉特別養護老人ホームでは、年間スケジュールを作り、ケアハウスの方々や職員の方も加わり、土壌作りを進めてきた。
- ・現在は、施設の方や近隣の方が、庭を通るたびに楽しんで下さり、苗の提供、情報の提供など、協力して頂く機会も増えてきた。
- ・苗バザー大会、お茶会、やきいも大会も多くのの方々の参加を得られ、仲間を増やすいい機会になった。
- ・関町特別養護老人ホームでも、もともと活動していたボランティアの方と週1回ほど一緒に活動を始めることができた。

- ・園芸療法の講演会を開くことができ、今までやってきた活動の確認、様々な知識を得る事ができた。

- ・手伝って下さっている老人クラブの農園で苗作りを始めた。

### ○講評から

- ・緑を通してコミュニケーションが広がり、障害の有無、年齢のいかに関わらず交流が進むというのは素晴らしいと思う。
- ・地域の中から、堆肥や苗や種などを集めるといった展開が次にあると面白いと思う。



## 会場の皆さんで選んだ やさしいまちづくり大賞

ハッピーライフのご提案  
認知症にやさしいまちづくり  
認知症予防推進員の会  
ミニ講座・劇グループ



### 投票用紙のコメントから

- ・参加者、活動回数ともに目標数に達しており、質的水準が高い。アンケートについても、きちんと分析しており、予防から認知症のケアの方向を見据えていることは心強い。
- ・益々の高齢者社会のなかで、認知症の方が多くなるのが確実、このような活動は単年度で終わるべきではない。



最終報告会後の懇親会の様子



## まちなか「ほっとベンチ」設置

練馬駅南口ほっとベンチ協議会

### ○活動報告

- ・活動地域を広げていくために、おとり様商店会の通りから中央通り商店会にほっとベンチとフラワーポットの設置を行った。
- ・駅に近いため放置自転車がかったが、区の関係部署に助けて頂いて自転車の撤去を行い、ベンチとフラワーポットの設置ができた。
- ・移動出来るベンチの認知度をあげる為に、七夕祭りや、八日縁日、西の市でベンチを置いてみた。
- ・和民とドトールの敷地内にフラワーポットとベンチを置かせて頂いた。和民の方からは、ベンチを置くことで、放置自転車もなくなり有難い、という話を頂いた。また、ベンチの設置については業者の方に来てもらい、安全面などにも気を付けるようにした。
- ・ベンチ自体に、この取り組みが分かるような仕組みを組み込んで、利用者に活動内容が分かってもらえるようにした。

### ○講評から

- ・座るものとしてだけというのではなくて、例えば放置自転車をなくすというような取り組みに使うというのは斬新。放置自転車はどこでも困っている問題なので、いい取り組みである。
- ・ベンチに、本当に少し休みたいというタイプの人たちは、外から見えないタイプの障害のある人たちや、妊産婦を含めているため、ベンチに自然に気づくことが出来る仕組みがあるといいと思う。



## 地域と障害者をつなぐステップ・ガーデン

ステップ・ガーデン

### ○活動報告

- ・当初、資金面が十分でなかったが、助成を頂いて設備を整えることができた。
- ・まだまだ十分ではないが、地域と障害者をつなぐということ、学び・交流という面での大まかな道筋は見えってきた。次年度はより充実させて活動していきたい。
- ・まだ1年目で、スタッフ間で共通の理解を持っていなかったが、地域福祉課の方に入って頂いて、もう一度ステップガーデンとはどんな所か、という見直しをした。それによって1つにまとまることできた。
- 講評から
- ・地域の中に障害のある人、特に知的障害のある人の居場所、交流場所をつくるのは大変なことだと思います。

- ・一般の人と障害のある人と卓球を交流の機会にしてほしい。
- ・子どもから大人の居場所、参加の場に充実していただけることを期待する。

